

モロッコ航空、スペイン人ジャーナリスト7人のエル=アイウン行きを阻止
死亡したサハラウィ少年の報道担当レポーターたちは、西サハラへと向かう途上だった。
国連事務総長個人特使は、現地の緊張緩和は緊急を要するとコメント。

EFE通信、ラバト 2010年10月25日

ロイヤル・エア・モロッコ航空は、エル=アイウン（西サハラ）行き航空チケットを持った7人のジャーナリストに対しチェックインを拒否した。このジャーナリストたちは、先日警察の発砲で死亡したサハラウィ少年を扱う報道のため、カサブランカからエル=アイウン行きAT0483便に乗り継ぎのところが何ら説明も受けずに拒否された。

彼らはみな駐ラバトのTVE、TV3、エル=ムンド紙、そしてEFE通信の特派員たちで、カサブランカに到着してみると次便のチケットが無効となっており、エル=アイウンへの飛行は次の金曜（11月5日）まで不可能との連絡を受けた。かれらが空港の同航空会社オフィスへ談じ込んだところ、「誰かが予約取り消しをした」という一言以外、一切の説明は得られなかった。

一方、TV局カデナ・スルの特派員はチケットキャンセルには遭わなかったものの、搭乗ロビーで治安部隊に取り囲まれて搭乗券を没収され、ロイヤル・エア・モロッコ航空の係員からは搭乗券不携帯のため搭乗拒否された。

緊張解消が必要

サハラウィ少年の死亡により現地では緊張した雰囲気が増える中、国連事務総長個人特使クリストファー・ロス氏は「何よりもまず緊急に緊張緩和の必要性がある」と述べた。しかし西サハラ紛争解決のための対話路線は、この事件により損なわれることはないと言った。

同氏はカサブランカ王宮でモハメド6世と会談した後、「(紛争解決へ向けた)環境を悪化させたり、次回の協議に障害をもたらすものはすべて回避すべき」とし、「解決へと歩調が確実に向かう道を開くことができるよう」願いを表明した。なおポリサリオ戦線とモロッコの協議はニューヨークで来月上旬に開催されるもようだ。

ロス特使のモロッコ滞在は26日までで、滞在中行われた会談では「現地における政治状況」「現在の状況乗り越える必要性、協議方法、相互信頼の構築に必要な措置」などが中心的話題となったと語った。